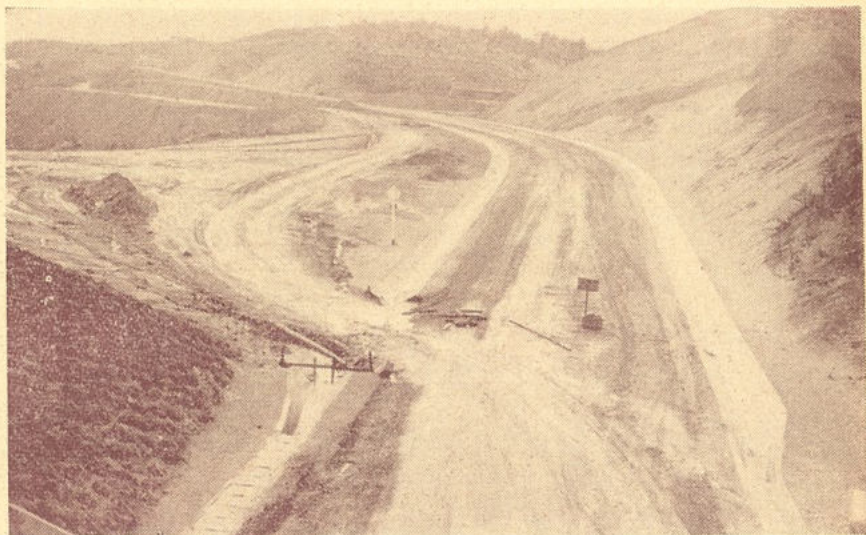


1957年の県政を回顧す

師走の風に乗つて一九五七年も、あわただしく暮れようとしている。かえりみると、今年、一九五七年は、県勢進展上、特筆すべき年であつた。

千二百万東北住民の長い間の願ひであつた、東北開発の基本法である東北開発三法が成立し、本県では、北奥羽特定地域の指定による全県特定地域の実現、県営発電第一号である胆沢第二発電所の完成等々今後の岩手の進路を決する布石が整つた年であつたといつても過言ではない。こうした、一九五七年の県政を回顧する意味も含めて、十二月九日の定例部長会議において、別項のとおり、県政ビックテンが選定された。



1957年の県政ビックテン

- 1 東北開発三法成立
- 2 北奥羽特定地域指定さる
- 3 県営発電着々進む（胆沢第二発電所の完成と岩洞第一、二発電所の着工）
- 4 湯田ダム工事本格化
- 5 大船渡港一万吨岸壁着工
- 6 農業の機械化大いに進む
- 7 ウラン資源脚光をあびる
- 8 都南学園とみどり学園の開園
- 9 小本線の延長と生橋線の着工
- 10 盛岡電話局の完成（自動式電話開通）

東北開発三法 成立す

昭和三十二年四月二十六日に「北海道開発公庫法の一部を改正する法律案」が参議院を通過成立し、五月十六日には「東北開発促進法案」がやはり参議院を通過成立、更に五月十八日には「東北興業株式会社法の一部を改正する法律案」が参議院を通過成立した。これを契機として白河以北、一山百文などという言葉で、いゝあらわされていたように、永年にわたる国の貧弱な施策のため、後進地域として取りのこされてきた東北に、はじめて積極的、本格的な開発政策が実施されることになった。

では、この「東北開発促進法」、「東北開発株式会社法」、「北海道、東北開発公庫法」という三つの法律、いわゆる東北開発三法というのは、どういふことを定めている法律であるかというところ「東北開発促進法」は東北地方の総合開発に関する基本的なルールを決めているとともに指定事業については、通常の国の負担割合の百分の百二十を国が負担することとし財政的な負担を軽減しながら重要な事業の促進をはかることを定めている。「北海道、東北開発公庫法」といふのは資金面で、東北の開発を促進する機能を

成立す

営ませるため、従来の北海道開発公庫法の地域的な業務範囲を拡大したものである。

「東北開発株式会社」に、東北興業会社を整備拡大して、東北地方開発のための産業立地条件の整備、及び開発上緊要と認められる特定企業を行わせるなど、事業範囲を拡大させることを定めている。

この東北興業会社というものは、東北地方の総合振興を目的として昭和十一年に設立されたが、終戦を契機として政府の援助停止により事業縮小を余ぎなくされていたものである。

- 一九五〇年
- ① 北上川総合開発二大ダム着工
 - ② 医療公営県立病院の発足
 - ③ 釜石線の開通
 - ④ 岩手開発鉄道の一部開通
 - ⑤ 国有牧野四万町歩解放
 - ⑥ 国有林野解放請願の採択
 - ⑦ 釜石製鉄所の生産拡充
 - ⑧ 中尊寺の学術調査
 - ⑨ 盛岡鉄道管理局設置
 - ⑩ 食糧自給県となる
- 一九五一年
- ① 北上特定地域指定さる
 - ② 主畜農業園が確立さる
 - ③ 県営グラウンド発足する
 - ④ 北岩手鉄道の計画なる
 - ⑤ 盛岡短期大学設立せらる
 - ⑥ 鉄道複線化着工せらる
 - ⑦ 十キロ放送の工事着手さる
 - ⑧ 商工館の事業開始せらる
 - ⑨ 松寿荘、和光学園、静和病院など社会福祉施設の飛躍的充実
 - ⑩ 山王海ダムの完成
- 一九五二年
- ① 「北上特定地域」国土総合開発の第一順位となる
 - ② 電源開発開始
 - ③ オリオンピクニック選手招待陸上競技大会ひらかる
 - ④ 大船渡市誕生す
 - ⑤ 鉄道建設促進さる
 - ⑥ 岩手丸の新造及び三漁港の修業起工さる
 - ⑦ 大規模農業開発事業促進さる
 - ⑧ 金融機関充実さる
 - ⑨ 食糧移出県となる
 - ⑩ 草地農業振興の対策進む
- 一九五三年
- ① 冷害におそわる
 - ② 北奥羽地域開発計画概要なる
 - ③ 電源開発進む
 - ④ 国有林解放一万吨歩達成す
 - ⑤ ジャーゾー種導入せらる

過去7年の県政ビックテン

- ① 県財政再建計画なる
 - ② 八幡平国立公園に指定さる
 - ③ 岩洞ダム着工さる
 - ④ 町村合併計画九六%達成
 - ⑤ 農漁家振興対策樹立さる
 - ⑥ 酪農推進態勢大いに進む
 - ⑦ 宮古港の一万吨岸壁着工
 - ⑧ 製塩工場の設置決定
 - ⑨ 自衛隊の設置さる
 - ⑩ 国営たばこ試験地の設置決定
- 一九五六年
- ① 空前の大豊作
 - ② 国民健康保険全県施行
 - ③ 東北本線の複線化三地区着工
 - ④ セメント増産態勢なる
 - ⑤ 草地農業開発着工（二戸高原の世界銀行調査ならびに集約酪農地域の指定）
 - ⑥ 全国第二位の銅産県となる（赤金、鷲合森、花輪等）
 - ⑦ さんまの大漁
 - ⑧ 県営発電の着工
 - ⑨ 労災病院、小児結核療養施設の設置決る
 - ⑩ 県機構の改革なる
- 一九五五年
- ① 両陛下の御来県
 - ② 国立公園「陸中海岸」国立公園「八幡平」の指定決る
 - ③ 山田線の復旧なる
 - ④ 新六市誕生
 - ⑤ 田瀬ダム完工す
 - ⑥ 北奥羽地域「調査地域」に指定さる
 - ⑦ 県有林造成四十年計画に着手す
 - ⑧ 仙人トンネル貫通と県道の着工
 - ⑨ 十二万農家十二万畜畜単位確保す
 - ⑩ 日独陸上競技大会盛岡大会開かる
- 一九五四年
- ① ラゾオ岩手発足す
 - ② 石淵ダムの完工と湯田ダムの着工
 - ③ 猿ヶ石川沿岸農業水利事業の着工と山王農業水利事業の完工
 - ④ 全国勤労者陸上競技大会開かる
 - ⑤ パン食モデル県となる

北奥羽特定地域指定さる

北奥羽地域は、長年の運動が実つて、十月十七日付で、特定地域として指定され、明春早々開発計画が閣議決定となる予定である。

これによつて北上特定地域とともに全県、特定地域としての建設譜がかなでられることになった。

この北奥羽地域というのは、青森、岩手の両県にまたがる奥羽、北上両山脈の北端に位置する面積一万二千四百七十二平方料の地域である。

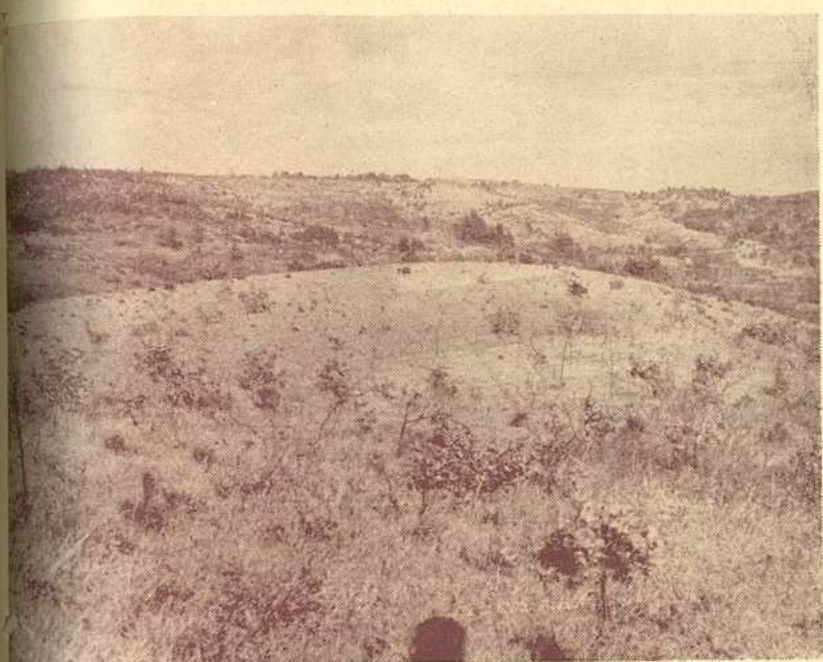
このうち岩手県分は六千三百平方料(五〇・六%)であり、岩手県の全面積の四一・四%にあたる。この地域は、戦後国土の総合利用という見地から注目され、その具体的施策について、しばしば検討され、また地元においても、開発に対する期待が非常に大きくその実現が強く要望されてきた。

たまたま昭和二十五年に国土総合開発法が施行されるに及んで、この地域の開発に対する熱意は、いよいよ高まり、開発のための努力がつけられ、昭和二十九年七月、国土総合開発法により調査地域として指定され、昭和三十年から開発計画をきめる重要な諸調査が行われ、問題点の解明に努め、特定地域指定の日の一日も早からんことを期待していたのである。

開発の基本方針は「恒久的な冷害対策を確立、主として交通施設を整備することによつて、諸資源の開発を促進するとともに、工業立地条件を整備して後進地

のいろいろの原因を解消する」とされており、従つて開発の目標も、この基本方針にそつて①冷害防除、②農産、水産、地下資源の開発、③工業立地条件の三点を大きくかかげている。

この開発方式は多目的ダムを中心としたTVA方式による(アメリカ式開発の)



北上特定地域の開発に對して、冷害防止と土地利用の高度化を主目的としたいわゆるイギリス式開発方式をとつている。

このため事業種目はA種(一般公共事業)B種(公社、公団などの資金を利用した間接的公共事業)のほかに世界銀行等の資金をバックとした投融资事業として、新にO種を設け三本建の開發方式を

とつている。事業費は、三十二年度から四十二年度までの十一年間で総事業費、一千七百八十一億八千三百萬円のうち本県分はA種三百四十二億三千萬円、B種二百四十二億千萬元、O種百七十六億六千五百萬元計七百六十一億七千萬元となつている。

このうち県の負担額は事業費の約一割に相当する七十三億四千二百萬円で、残りは国費と融資によつてまかなわれる計画である。

計画が実現された際には、農業や畜産業が飛躍的に発展し、現在生産高の倍になり、林産もほぼ倍に増加するとともに造林によつて造成される森林が土地を保全し農、畜産など他産業に及ぼす効果も大きい。

水産、鉱工業もまた倍近い増産が期待される。

このように各種産業が広大な土地資源と海洋資源の開発によつて飛躍的な増産がはかられることは我が国、食糧自給力の向上に寄与するものであるとともに、地域産業が発展することになり、いわゆる最低生活にあえぐ地域農林漁民の経済生活を向上させることにもなる。

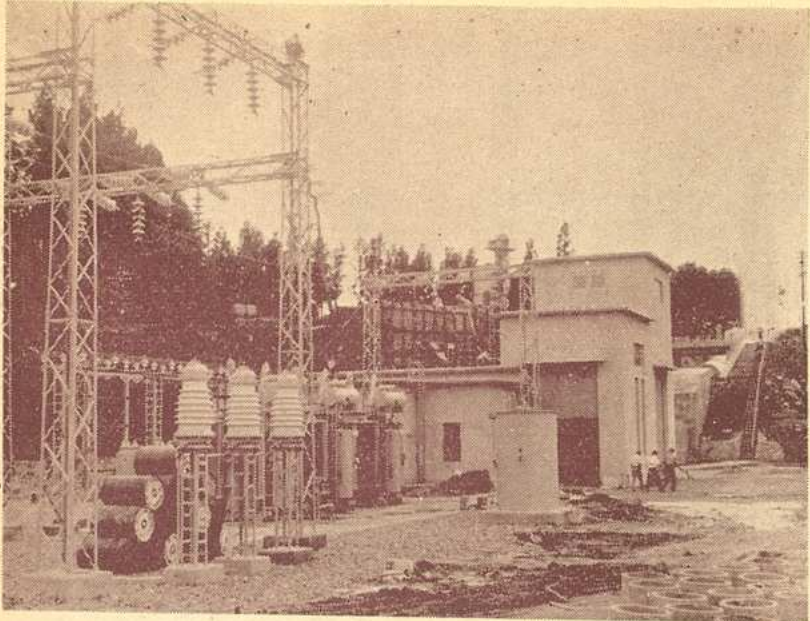
このことは我が国唯一の純粋後進地域のモデルの解消にもなり、人口収容力を増大せるといふ偉大な効果を取めることができる。

県営発電着々進む

胆沢第二発電所の完成と岩洞第一、二発電所の着工

県営発電第一号「胆沢第二発電所(最大出力六千二百キロ)」が十一月二十六日に県史の一頁を飾る完成式をあげ、更に、県営第二、三号となる岩洞第一、二

要課題として進めてきた理由は、まず第一に国土保全、環境整備等の公共事業を基礎とし、産業開発に至るまでの、一貫した総合開発計画の実行過程における発電計画、及びその遂行は他の計画と密接な結びつきが必要であること。第二には多目的ダムに對する治水及び利水の総合管理の立場から、第三には工場誘致にあつての県政諸般との関係から、第四には安定した電力供給の確保こそ、産業開発のためには不可欠の条件であること等からである。発電事業、そ



のものを目的とした営利事業ではなく、産業開発の究極の理想に到達するための手段としているところに、県営発電事業推進の目的があることを思うとき、こうした一連の県営発電事業が着々進んでいることは大きな意義のあるところである。完成した県営発電第一号「胆沢第二発電所」は昭和三十一年三月から総工費七億六千五百六十萬円で着工されていたもので、去る十月一日には通水式をあげ、十月十日〜十四日まで通産省の予備試験を受け、十月二十日〜二十三日まで竣工検査を受け、仮認可を受けて二十四日から正式に発電を行つている。

この発電所は電源開発会社「胆沢第一発電所(最大出力一万四千六百キロワット、常時四千九百キロワット)」から放流される水を下流でせきとめ、コンクリート管、鉄管で約二千四百米導水し、常時千九百五十キロワットの電気を起こすというものである。

工事は着工以来一日のおくれもなく順調に進められ、発電所は落差の関係で地下にもぐり地上一階、地下三階、建坪六百六十八平方メートル、長方形の角棒を打ちこんだような珍しい形をしている。

地上は事務室と配電室で、地底の一室が排水ポンプ室、次が水車室、続いて発電機室、補助機械室の順になつていく。

水車室で一分間に三百三十三回転するフランシス型タテ軸タービンが使用した水は排水ポンプ室に流れ落ち、さらにこれが放水路を経てかんがい用水として放

流される。

一方発電された電力は、電線処理室から配電板室を経て東北電力水沢変電所に送られている。

売電単価はキロ当たり二円八十五銭ときまり、これによる年間売電収入は八千七百円となる見込である。

一方五月二十七日に着工された岩洞第一、第二発電所は、岩手山麓の荒野をきりひらき、ここに一大開拓郷を建設しようという岩手山麓開発事業の主軸をなす「岩洞ダム」の水を利用して発電を行おうというものである。

岩洞第一発電所は最大四万一千キロ、常時一万九千二百キロを発電するものでこの発電所は地下三百米のところに建設される地下発電所でも有効落差四百六・九米という日本には今だかつてない発電所である。

岩洞第二発電所は最大八千三百キロ、常時三千五百キロを発電するもので、これは第一発電所から放水された水を利用することになつている。

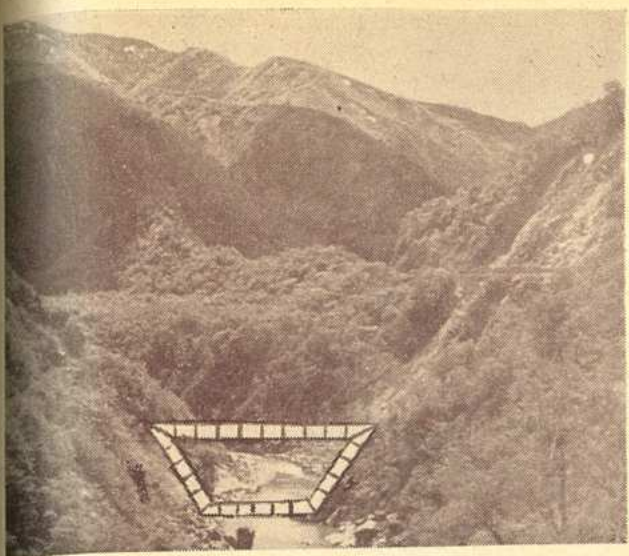
今年度事業は、ほとんどが予備事業で工事用の送電線、変電所、配電線、道路などを行つており、本工事は坑口の開きくを一部行つて予定である。

なお今年度予算は一億四千万円であるが、総予算は四十九億の予定で、三十五年の九月には発電開始になる予定である。これらの県営発電事業が順調に進み、開発の原動力として活躍する日の一日も早からんことを県民一同願つておこす。

湯田ダム工事本格化

北上川の洪水予防に重大な役割をもつ湯田ダムは、二十八年から着手というこにはなつていたが三十一年度まで、わずかに一億二千六百万円しか予算がつかず、従つて、測量と設計が行われていたにすぎなかつた。

このように本格的に工事を進められなかつた一つの大きな原因として、水没者の補償がきまらないでいたことがあげられていたが、五月十四日、補償問題は完全に解決した。



補償問題が難行したのは、この地帯は全国的にも稀に見る大規模な水没地帯で水没戸数五百六十五戸、人口二千九百七十二名で住民の職種も四十八種にのぼり鉄道の駅が二カ所、鉄道線路十四軒も水没する。

湯田ダムは北上五大ダムのうち石淵、田瀬についで三番目に建設される多目的ダムである。

ダムの高さは八十八・五米、堤頂長二百五十七米である。

今年度は、補償費六億五千万円を含めた八億四千二百百万円の工事費がつき、工事が本格化し、杉名畑、事務所間、千三百四十米の工事道路と事務所の建設が行われており、引続き、通水能力毎秒三百五十五立方メートルの仮排水路、それに、高さ七十七米のアーチ式コンクリート造りの上流仮締切と、直線重力式コンクリート造りの高さ七米の下流仮締切り工事が行われる。

一方これと平行して、川尻地区の国道新設工事なども行われる予定である。

なお完成は昭和三十七年十月の子定である。

大船渡港一万吨岸壁着工

臨海工業都市として将来の発展が約束され、期待されている大船渡港に待望の一万吨岸壁が構築されることになつた。起工式は去る十二月五日大船渡町、県営埋立地で行われた。

大船渡港は北上特定地域の副の要にあたる位置をしめ、附近には地上、地下の資源を豊富にもち、更には、天然の良港として、今一番浅いところでも水面から九米、深いところは二十米以上もあり、今のまゝでも一万吨級の船が横づけできる状態にある。

そして港の形が、太平洋の荒浪が入らないようになつており、従つて津浪の心配もない。

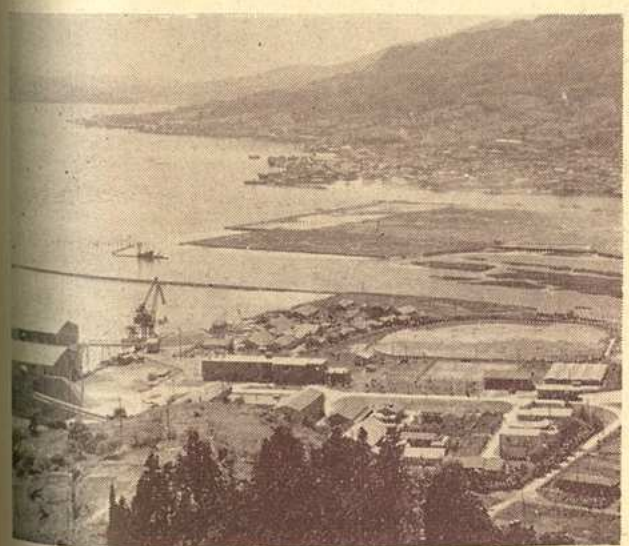
こうした条件のほかは何よりも大切なことは、将来どんな大きな港にもするこゝとが可能だといふ素質をもつていふことである。

こうしたところから、臨海工業都市としての計画がたてられ、工場敷地五十万坪の造成が計画され、現在までに約八万坪の造成が行われているほか、工業用水の確保、交通網の整備等が進められているが、何んと

しても一万吨岸壁の構築が先決問題だとして着工が強力に要望されていた。

今年度は約四千万円の予算で、工事を進め、その形式は欄式に決定し、長さ百八十米のうち今年度は、三十八・三米構築される予定である。

この岸壁がポイントとなつて、臨海工業都市としての計画が、今後順調に遂行されることと期待されている。

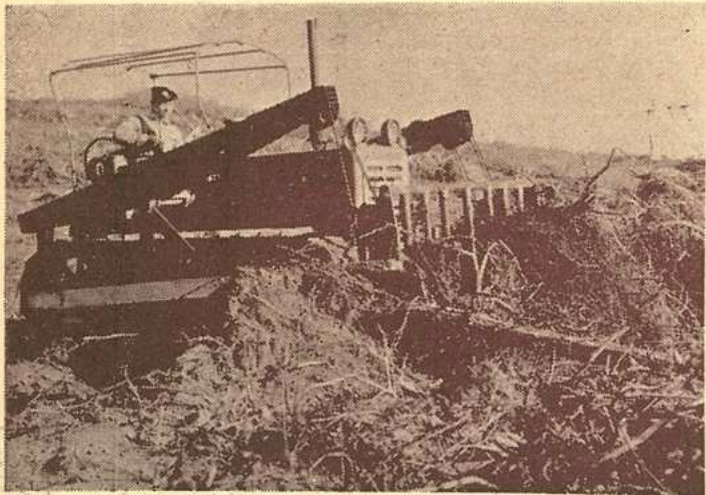


農業の機械化大いに進む

阿部知事は三十一年の二月定例県議会における知事演説のなかで、「農業経営の改善については、農業の地域性に立脚した土地の総合利用計画にもとづいて、推進をはかるのであるが、更に生産の安定、効率化を図るため、水田地帯の二毛作対策として、自動耕耘機の導入を始め農業機械化の促進について奨励を行うほか、殊に東北畑作地帯の農業を合理化するため、年次計画による畜力農機具の導入については継続して助成する考えであります。」と所信をのべてあります。

一般産業界における急速な生産力発展のテンポに、農業も合せて行きたいというところから、まずその手はじめとして、草地改良並びに開墾事業、土地改良事業等を強力に進めるためには大規模な合理的運用が第一であるとして「農地開発会社」を設立した。

この「農地開発会社」に所有されている大規模な農機具は二十七台にのぼっているが、今後さらに増加しなければ、需要に応じきれないという状況である。



一方、個人所有、農協所有等の自動耕耘機等も、ものすごい勢いで、導入され今まで重労働となつていた、耕起作業、代掻き、運搬と各方面に活用されていることは、今後の農業を進展させる原因となるであろう。

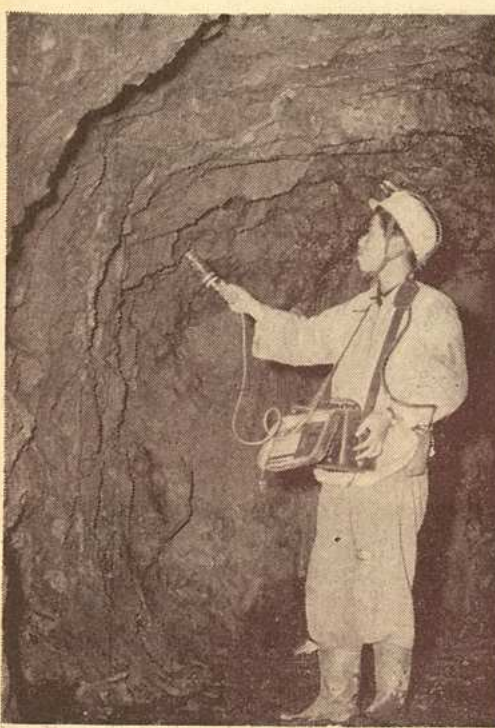
☆ ☆ ☆

ウラン資源脚光をあびる

岩手県のウラン探鉱は一昨年、岩泉町三田貝の長石鉱区にウランが含まれていることが判つたのをはじめとして、この春には、東磐井郡と地続きの宮城松岩鉱山において瀝青ウランが発見されてから、北上山系一帯はウランの宝庫として新時代の脚光を浴びてきた。

調査の最初の段階として、探鉱金属ウラン及び休止鉱山の旧坑について調べてみた結果、野田玉川鉱山、釜石鉱山において異常を認め、精密調査の結果、前者には閃ウラン、後者には瀝青ウランの賦存が証明された。

この鉱床は接触交代鉱床であり、これら各種の鉱床の賦存状況から調査方法にヒントを得て夫々の調査をしている。



地質調査所では三十二年度にエアロフロン、カーボン調査を終り、仙台駐在員事務所において有望な鉱床に対し逐次調査を実施し、その成果は見るべきものがあるが、未だ正式な発表はない。

又原子燃料公社は自動班、二班、地上班二班をもつて、釜石以北久慈に至る海岸地帯の調査を実施し、明年度は探鉱費として十億円を予定し、そのうち四億円を岩手県分としてあてる予定であるという民間における探鉱熱も物すこく中央から訪問者もあつたとす、正にウランブームを現出している。

岩手県のウランは品質的には優秀な鉱石（閃ウラン、瀝青ウラン）が検出されても量的には全然その外ほろつかみ得ない現状であるが、逐次調査が進んでおり、鉱量の概要も、そろそろ把握できるところである。

都南学園と

みどり学園の開園

太陽のもとで「しいの爽よ、穀を破つて芽を伸ばせ」の映画「しいの実学園」の子供たちのような手足の不自由な子供たちのための施設「都南学園」が完成十二月十一日、新装成つた学園の機能訓練室で落成式が行われた。

この肢体不自由児施設、都南学園は、今年の二月から工費三千三百七十六万円で紫波郡都南村手代森地内に建築中のものであった。

学園は三千三百坪の敷地に、五百坪の木造平屋建がコの字型に建てられ、クリーム色のモルタル仕上げ、ピンクの屋根。というスマートなものであり、施設もまた全館暖房、二重窓、照明も全部けい光灯、廊下は不自由児のために二間巾とし、両側には手すりがつけられ、松葉づえを使う必要がないようになつてゐる。

浴場は、マッサージが治療に大きな役割を果す関係もあつて、総タイル張り十五坪という大きなもの、浴そらにも手すりがつけられ更に傾斜もついて、手足の不自由な子供達が入りやすいように工夫されている。

二面の壁にはバンビが二頭たわむれてゐる図と裸の幼童がドクダミの下に遊ぶ図、児童が遊ぶ場面がタイムルのモザイクで飾られてゐる。

クで描かれ浴場は全くのユートピアである。教室、訓練室、居室などは色彩や天じようで変化をつけ、南面は、総ガラス張り、テラスも広くつてゐる。

訓練場には日常生活のため、手指を訓練するものや、腕、足を訓練するものなど、数十種の機能訓練器が設備されている。

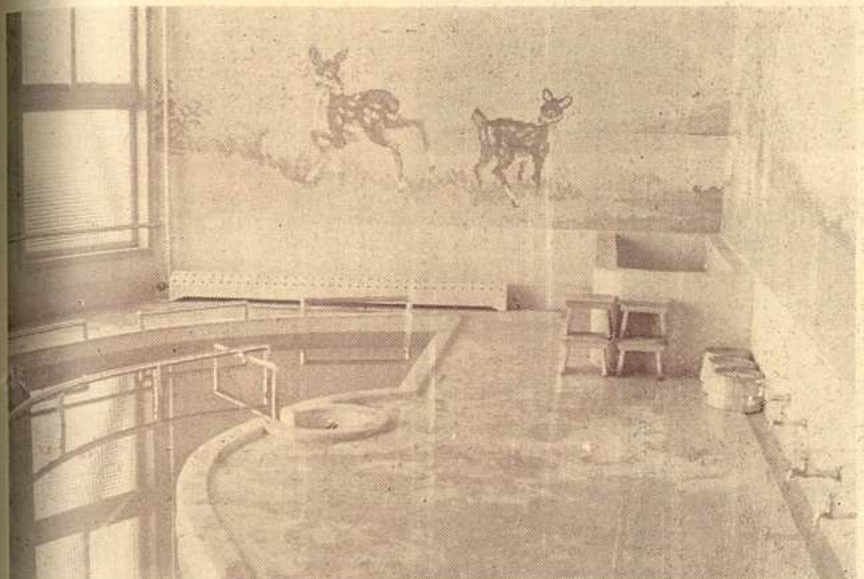
さらに医療施設としては、東北では一つしかないという新潟大学式手術台も備えられてゐる。

この手術台は、自由に動き、あらゆる角度から手術ができ、手術しながら骨格のレントゲン撮影ができる。

また手術室には自動滅菌装置もつけられ、大きな無影灯も完備し、県下一の手術室となつてゐる。

この施設は、手足が不自由なため学期に達しても学校に行けなかつたり、また行つて普通の子供と一緒に学業をつづけることのできない子供たちを収容してこれを治療するとともに教育と職業能力をさすけようというものである。

これらの施設は全国で二十カ所、東北



では宮城と福島にあるだけであつた。岩手県には、この施設に収容して教育と治療をしなければならぬような子供たちが約九百名くらいと推定されてゐるので、こゝ手足の不自由な子供たちばかりでなく、県民ひとしく大きな喜びとしなければならぬ。

岩手山の美しい姿を望む盛岡市上田緑ヶ丘に胸病む子らの楽園「みどり学園」が完成したのは、六月十五日であつた。

この施設は昭和三十一年度お手玉はがきからの配分四千四百万円と一般寄附六百万円の計五千万円の予算で、昨年八月から児童施設研究所が、設計監理を受持ち、工事が始められていたものであつた五千坪の敷地に二階建の療育舎、ボーイラーム、女子職員宿舎などがならんでゐるが、療育舎は南向きの鉄筋二階建で、二階は子供たちの居室六室のほか、保安室看護婦室、病室など十八室にわかれ、居室と病室には百のベットがおかれてゐる。

一階は普通教室四、特別教室二ホール食堂、調理室など、計十五室になつてゐる。一方、管理舎は木造平屋で診察室、レントゲン室、事務室など十室にわかれてゐる。

近代建築様式の粋をあつめて子ども本位に建てられただけあつて、胸を病む子どもたちの夢ははくむにふさわしい学園である。

なお現在七十四名の子供たちが入園し療育と勉学にはげんでゐる。

小本線の延長と生橋線の着工

宮古市、下閉伊郡北地方民はじめ県民ひとしく待望してゐた小本線宇津野〜浅内間十一・一キロは、さる五月十六日開通した。

これは二十二年十月押角峠を越えて宇津野まで開通してからちよと十年ぶりであつた。

宇津野〜浅内間は十八年に着工されたが十九年六月に中止になり二十七年まで見送りとなり、二十七年再び着工し、二十九年三月路線やトンネル、橋りよらなどの土木工事が完成したが、引続く軌道工事がお預けとなつてゐた。

三十一年五月軌道工事に着手するとともに、土砂くずれや落石などによる運転事故を防止するための落石止めサケヤ、法面防護の張コンクリート工事など総額一億円近くを投入、支線には過ぎたといわれるほど入念な防災工事が行われて、開業となつた。

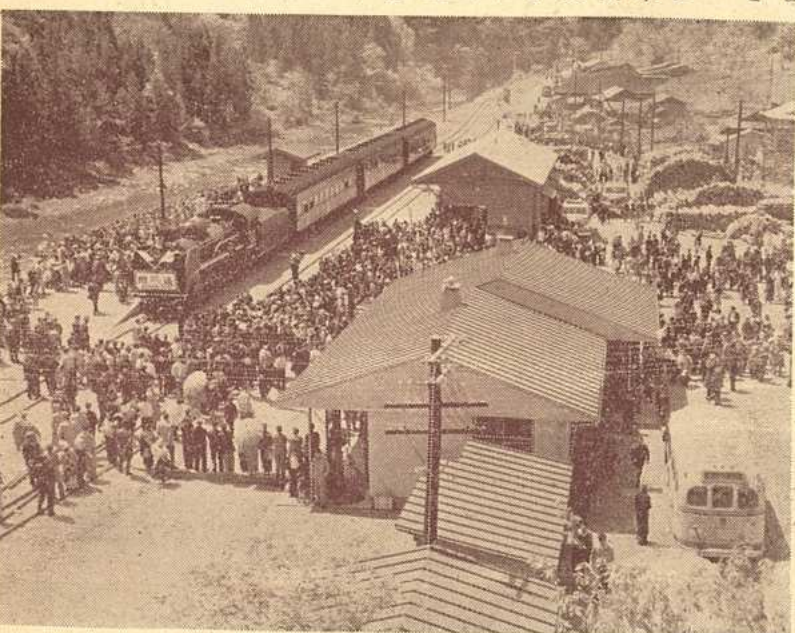
国鉄盛岡工場の調べによると小本線宇津野〜浅内間の総工費は十二億二千四百十萬円の巨額に達し、トンネル区間の多い鉄道建設費のキロ当り単価一億円を更に上廻つてゐる。

全長十一・一キロのうち橋りよらが二十カ所、八百七十八米、トンネルも二十カ所で総延長三・六一九キロで三分ノ一以上がトンネルということになつてゐる。

レールは釜石製鉄所生産の新品で、線路のいたるところに見られる落石防止サケヤや張コンクリートの偉容は、国鉄関係者でさえ驚くほどの大規模なもので、海抜八百米の押角峠のふもとから北東へ伸びた堂々たる輸送動脈は、岩手の奥地開発に大きな役割を果すものと期待されてゐる。

即ちこの地方に産出する豊富な木材資源、薪、耐火粘土、石灰石、大理石などの資源が開発されることになり、岩手県のみならず、日本の産業経済に及ぼす影響は、はかり知れないものがある。

一方、生橋線の着工が四月三日の鉄道審議会で正式に決定した。



両県民の喜びは大きい。生橋線建設の歴史は、政党政治や戦争の影響を強く受けた苦難そのものであつた。

大正九年の第四十三議会で建設予算六百四十三万円が決定しながら着工はのびのびになり、大正十一年から工事の段取りになつたのに関東大震災のために中止になり、その後浜口内閣は緊縮財政を理

由に建設線から削除してしまつた。昭和十一年再び着工が決定、生保内志度内間六・六キロの工事を始めたが、日華事変のため工事を中止、のろわれた線路として同情されてゐた。

三日の審議会では「本年度ただちに決定」と決めただけで予算は持越されてゐたが、その後五百万円の予算が配当になり、現在は測量調査を終り、設計の段階に入つてゐる。総予算は約十九億円で、完工は早ければ三十六年の暮か、おそくとも三十八年の春頃と見られてゐる。

この線は岩手県側の橋場線筆石駅と秋田県側の生保内線保内駅を結ぶ二十四キロ余で奥羽山脈横断交通路としてばかりでなく、太平洋岸宮古市と日本海岸秋田市を結ぶ最短路線としての重要性がある。この線の完成により、時間的には勿論沿線にねむる用材、新炭材、坑木、バルブ等の開発が期待されるほか、硫黄などの新しい地下資源の開発も有望視され、東北開発研究会、盛鉄局生橋線建設同盟会の調査によれば、沿線の生産額が四三・七%ふえるとされてゐる。

更に裏岩手から駒ヶ岳一帯及び盛岡近郊の温泉などの観光資源が大きくクローブアップされ、旅客交通面では、新潟、北陸、関西への最短ルートになるので、従来はとかく遠い存在であつた大阪、京都がかなり身近になつて、東北と関西の経済文化の交流に大きな役割を果すことになる。

盛岡電話局完成

自動式電話開通

電々社の第一次五年計画の線に沿って、三十年の十二月から局内機械設備二億円、外線二億六千万円、局舎一億四千万円の計六億の予算で、自動式電話化の工事が進められていた盛岡電話局は八月四日自動化装置と局舎が完成、共電式から完全に自動式に切替えられた。

モールズによる電話機の発明（一八五三年）の後アメリカ人アレキサンダー・グラハム・ベルが電話を発明して、遠くはなれた人と肉声に近い声で話しあう驚きと喜びとを人類にあたえたのは、一八七五年のことであった。

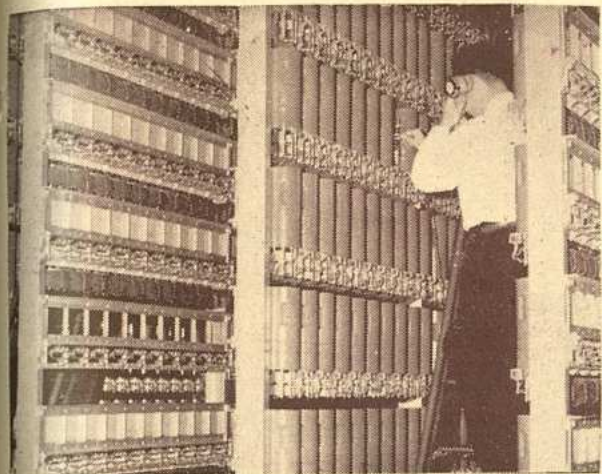
この年の六月二日の午後、彼が「ワトソン君、ちよつと用があるから来てくれないか」と話しかけた、よわい声が、はじめて電線を通じて話された人間のこゝろであった。

その翌年日本にも電話が伝わってきたが、事業として出発したのは、明治二十三年十二月、東京と横浜の居留地をつなぐ電話が開通した時としている。

三百人、横浜百人と予定したところ双方で七十四人にしかならず、政府は広告宣伝に大わらわだった。

しかしいつたん電話交換が開始されると、その便利なのが知られ急速な発展をみ、現在では二百九十七万七千六百二十五の電話が架設されている。

しかも電話の新規加入申込は全国的に年々ふえているが、その要求に対して三



〇%しか充足できないでいる。こういう現象は、大部分の局が満員になつていて、新しく電話局やケーブルを増設しなければならぬこと、盛岡でもいえること、共電式当時は一千九百の申込があつたが全然増加する余地がなかつた、それが自動式にかえたことによつて、一千六百増加でき総数で六

千六名の加入数となつていく。将来は一萬二千まで増加することができ、回線数も現在百七十五であるが、将来は千回線まで増加させることが可能となつた。

この自動化によつて東北では盛岡が普及率では一位（人口百人につき）となり、絶体数は仙台（十二月）花巻（二月）が即時通話できるようになるほか、三百ぐらいの増設も可能である。

このほか、釜石に対してはマイクロウェーブを設け、釜石を中心として海岸地帯の施設を充実する計画である。

このように盛岡電話局を整備拡充することは、県全体の電話施設を充実する基礎となるものであり、現在の社会活動の面における電話の果す役割の大きいことを思うとき、この盛岡電話局の自動式化完成は、岩手県の産業経済、文化の向上に裨益するところ大であるといわなければならない。



広葉樹資源

岩手県には百五万七千五百十三町の林野面積のうち広葉樹林の占める面積は五十七万三千二百五町で半数以上が広葉樹林で占められている。この広葉樹といふのは、従来は主として薪炭材として利用され、一般用材としての利用は少なかつた。

ところが、最近木材をとりまく産業が急ピッチで近代化の方向に向つており、従来からの用途である構造材に加えて繊維工業の原料としての需要が急激に増大したため必然的に広葉樹利用の拡大をもたらす結果となつた。即ち木材を削つて、とかし、それをかためて、つくる、ホモゲンホルツ、チップボード等は樹種、樹質、年数を問わず、どんな木材でも繊維さえとればよいといふものであるからである。

これらの製品の用途は防音、家具、壁、天井、床など非常に広い。この木材化学工業に対する原料として木材を供給するにあつては、大量かつ一定量の広葉樹材を規則正しく供給しなければならぬところから、その供給地としては当然豊富な広葉樹材をもつ岩手県があられることになる。

この木材化学工業に対する原料として木材を供給するにあつては、大量かつ一定量の広葉樹材を規則正しく供給しなければならぬところから、その供給地としては当然豊富な広葉樹材をもつ岩手県があられることになる。

この木材化学工業に対する原料として木材を供給するにあつては、大量かつ一定量の広葉樹材を規則正しく供給しなければならぬところから、その供給地としては当然豊富な広葉樹材をもつ岩手県があられることになる。

この木材化学工業に対する原料として木材を供給するにあつては、大量かつ一定量の広葉樹材を規則正しく供給しなければならぬところから、その供給地としては当然豊富な広葉樹材をもつ岩手県があられることになる。

この木材化学工業に対する原料として木材を供給するにあつては、大量かつ一定量の広葉樹材を規則正しく供給しなければならぬところから、その供給地としては当然豊富な広葉樹材をもつ岩手県があられることになる。

盛岡体育館完成

この木材化学工業に対する原料として木材を供給するにあつては、大量かつ一定量の広葉樹材を規則正しく供給しなければならぬところから、その供給地としては当然豊富な広葉樹材をもつ岩手県があられることになる。

政の話題

中国農林部長王震氏（開拓大臣にあたる）を団長とする訪日中国農業技術代表団一行二十四人が十一日岩手県に到着した。十二日まで二日間県内の農業事情を視察し、小岩井農場、東北農試、猿ヶ石ダムを視察した。

一行は開拓、土壌、畜産、農業水利、肥料その他の農業技術関係者で「日本農業を現地で視察、調査して中国にとり入れ、農業生産の向上を期したい」という目的で全国各地をまわり、岩手県を訪問したものである。二日間のあわただしい日程であつたが、三班に分れ、きわめて熱心に視察、調査した。一行の半数ぐらゐは日本語ができ、また日本の大学を卒業したという人たちもいるといふことで、終始なごやかに友好的な姿を見せていた。とくに岩手県の急速に進んだ酪農には注目していたようであり、東北農試の搾乳による牛の飼養方法は合理的な使い方だと興味をもつていた。

中国農業技術団の来県

また小岩井では、ここにいると、まるで中国にいるような感じを受けるほど日本はなれしている。しかも管理、とくに火山灰土をこれほど立派な牧草地にしたのは頭が下がるばかりだ。この牧野改良には学ばべきところが多くあると、非常に感心していた。

去る三日開かれた東北開発促進協議会は、前日の二日、自民党東北開発特別委員会が重点施策としてとりあげた。千三百五十三億四百二十万円をそのままとりあげ「予算編成にあつては総額千三百五十三億円を計上されたい」など八項目にわたる政府への要望事項を決めるとともに「われら千二百万の東北民は結束を堅くし、中央、地方打つて一九となり、明年度予算の確保にまい進する」との宣言を發し、明年度こそ、要求どりの予算を確保するよう力強い態度をうちだした。

この東北開発の明年度予算案として打出されたものうち、岩手県分としては二級国道八戸〜仙台線、宮古〜秋田線や、仙人有料道路、生橋線、三陸鉄道、岩手開発鉄道、北岩手鉄道、港灣整備としては大船渡港、宮古港、河川総合開発としては湯田ダム、四十四田ダム、御所ダム、河川改修として北上川、和賀川、砂防としては北上川水系、工業地帯整備としては大船渡港土地造成、工業用水、土地改良としては猿ヶ石川、豊沢川が予定されこのほか、開拓としては猿ヶ石、岩手山ろく、胆沢、北岩手、漁港としては大船渡、大槌、釜石、島ノ越、山田、田老などが予定されている。いずれ、どれくらい予算がつくかは今後の問題であるが、我々県民は、この開発予算の少しでも多くつくことを期待しておこう。

東北開発予算案